

西谷会計

2015年9月号



今月の税務・会計

【役員給与を減額する際のポイント 1/2】

業績や資金繰りの悪化などを理由に、事業年度の途中で役員報酬の減額を検討している企業があるかもしれません。法人税法では役員報酬や役員賞与をひとくくりにして「役員給与」といい、それが「定期同額給与」であれば、税務上の経費（損金）とすることができます。

※定期同額給与とは、支給時期が1か月以下の一定期間ごとの支給で、支給額が事業年度を通じて原則同額のものを行います。

しかし、単に「資金繰りが苦しい、業績が厳しい」という理由だけで、役員給与を減額してしまうと、定期同額給与には該当しないので、税務上の損金として認められない場合があります。

例えば、毎月100万円の役員給与を事業年度の途中で60万円に減額すると、最初から40万円だったものとしてみなされ、差額40万円は損金と認められないということになります。この場合、資金繰りが厳しいので役員給与を減額したにも関わらず、税務上の経費とならない分が新たに生じますから、税金が追加で発生してしまいます。



経営ワンポイント

【画期的な新商品より改善】

世の中の誰も思いつかなかったような新商品を開発することは至難の業です。そもそも新商品開発の目的は、新商品そのものではなく、新たな収益を獲得するための商品を獲得することにあるわけです。そうであれば、世の中を変えるような大発明でなくとも、今ある商品の欠陥を見つけ出してそれを直すことの方が、収益獲得の近道であり確実な方法です。

したがって、画期的な発明やアイデアに囚われることなく、今の商品の改良にじっくりと取り組むべきです。今の商品の欠陥を見つけ出す最良かつ最も早い道は、その商品を利用するお客様を始め、流通業者、小売店の意見を聞くことです。注意すべきことは、改良というのは最終消費者だけを考えるのではないことです。小売店が売りやすいように、流通業者が運送しやすいように改良すれば、取扱数量が増えることが期待できます。消費者の目に留まる機会が増えれば販売数量は増えるのです。

社長自らが外に出て、要求や意見、不満に素直に耳を傾けることで思いもよらなかった欠陥が見つかるかもしれません。その為にも社長が積極的に外に出るべきです。



夏子の部屋

ココナッツは椰子の実の事です、ご存知でしたか？私は漠然と、違うものかと思っていました。

椰子の実がなるのは、椰子の木の中でも「ココヤシ」と言われる種類の椰子だそうです。椰子の実の中には透明な液体が入っています。それをココナッツジュースと言います。売っていたので、飲んでみました。

椰子の実ごと買ったのではなくて、紙パックに入ってスーパーで売っていたのを買いました。タイ産とハワイ産の二種類があり、どちらもピュアウォーターと書いてあります。両方買って飲み比べることにしました。

飲んでみると、どちらも甘くないスポーツドリンクの様な味ですが、ハワイ産の方がしょっぱく、タイ産の方が青臭い感じでした。ココナッツから想像する甘〜い味とは全く違いました。はっきり言って美味しくなかった。

でもでも、南の島でココナッツにストロー挿して、チューチューしてみたーい。



所長からのメッセージ

青森市内の家電量販店の一つであるコジマ電気が、9月13日をもって閉店します。コジマ派の私はとても残念に思っています。確かにお店はお客様が少ないですし、平日は閑散としたものです。

コジマは中央から青森に進出してきた初めての家電量販店でした。迎え撃った地元資本のデンコードーは株式を上場し、TUTAYAと提携したり、Hard Offを展開しましたが、今ではケースデンキの子会社に落ち着きました。

コジマの後に青森に進出したヤマダ電機は、売上1兆円を達成し圧倒的な存在感を示しましたが、ネット通販の勢いに押されて、巨大な商品展示場になってしまいました。5月にはヤマダ電機浪岡店も閉店しています。

移り変わりをみると諸行無常、栄枯盛衰です。

西谷会計事務所

青森市勝田2丁目6番18号 TEL 017-774-2315